



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2016/04/03(日)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 179

第28回北海道高等学校バスケットボール新人大会を観戦して【女子の部】
(平成28年2月11日(木)～14日(日) 帯広市、音更町)

北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会 泉 春美

インターハイ予選の熾烈なシード権争いのなか
札幌山の手が貫禄の4年連続22回目の優勝

昭和63年度の第1回開催から平成の時代とともに開催されてきた全道新人は今年度で28回目を迎え、帯広市と音更町で熱戦が繰り広げられました。1・2年生で構成した新チームにとっては初めての全道大会となり、来年度のインターハイ予選のシード権をかけて32チームがどのような戦いをみせてくれるか期待が膨らむ大会でありました。

- 優勝 札幌山の手高等学校
2位 北星女子学園高等学校
3位 旭川藤女子高等学校
海星学院高等学校

今大会、初戦から準決勝まで120点オーバーとなるゲームを積み重ねて、磐石な戦いをみせてくれたのは、優勝した札幌山の手でした。

ディフェンスの1on1の厳しさやローテーションの早さなど、習慣化してきた事の精度を追求するとともに、更に豊富な選手層で相手を上回り、対戦相手がアジャストに苦勞している間に試合を決めてしまう内容でした。

また、オフェンスでも下級生の時から経験を積んできた選手達を中心に自分の持ち場で役割を果たす組織力を感じました。栗林のインサイドを軸に、突破力と外角シュートを持ち合わせたアウトサイド陣の攻撃力も絡んで得点を量産しました。栗林と対角のポジションになった遠山は自分のディフェンスが栗林に引き寄せられる間に有効な合わせやオフェンスリバウンドに飛び込んでいたことがチームにプラスに働いていたように思います。

この札幌山の手に唯一食い下がったチームが、3年振りの決勝に駒を進めた北星女子でした。北星女子は相手ディフェンスの反応の良さを逆にとり、ドライブ崩しから判断良くキックアウト。このシュート率がとても高く、札幌山の手が出だしでもたつく間に、北星女子が優位な戦況で進みました。特に前田のシュート精度が高く、前半のスコア40点のうち28点を叩き出しました。後半はスコアに苦しみましたが、フィニッシュに絡めるポジションやタイミングを作り出す感覚が素晴らしい選手でした。また、センター藤原は札幌山の手の高さに対して、攻防の仕方を工夫しながら戦っていた姿が随所に見受けられ、今後の成長が楽しみになりました。

そして、ベスト4をかけた熾烈な試合を制し、インターハイ予選のシード権を獲得したのは旭川藤女子と海星学院でした。

3位決定戦に勝利したのは旭川藤女子。海星学院戦では相手のチェンジングディフェンス

に対して、落ち着いたパスワークで対応し勝利を引き寄せました。準決勝の札幌山の手戦では活路を見いだせない戦いとなりましたが、練習してきたことを堅実に表現できるチームですから、この経験から練習の質を更に上げて、次に向かっていかれると思います。

海星学院も新チームになり、メンバーがガラリと変わりましたが、1on1のドライブやコンタクトの力強さを全員が持ち合わせており、内外角のシュート決定力が上がってくると相手チームにとっては本当に厄介なチームになるに違いありません。

このほか、ベスト4をかけた試合だけではなく、1・2回戦でも結果がどちらに転んでもおかしくない試合展開が多く、それぞれのチームが4月に新入生を加えて、どうチーム作りをしていくのか、次のインターハイ予選はその成長度に着目したいと思いました。

今年はいよいよオリンピックを迎えます。オリンピック予選やWJBLの活躍から北海道出身の選手も選出されると思われ、楽しみが倍増するところです。日本が世界で戦う姿から良い刺激を受け、後に続く北海道出身オリンピックを輩出できるよう研鑽していきたいものです。

最後に、この大会は主管の帯広地区バスケットボール協会の皆様ほか大会運営に関わった多くの方々の強固な連携と的確で素早い対応力で、この大会が無事に終了できたのだと思います。開催準備から大会まで、本当にお疲れ様でした。